

2023年11月9日

各位

会社名 株式会社 JDSC
代表者名 代表取締役社長 加藤 聡志
(コード: 4418、東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 作井 英陽
(TEL. 03-6773-5348)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2023年11月9日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、以下のとおり2023年8月10日に公表いたしました2024年6月期(2023年7月1日~2024年6月30日)の業績予想を修正することといたしましたので、お知らせいたします。

1. 当期の業績予想数値の修正(2023年7月1日~2024年6月30日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	EBITDA
前回発表予想(A)	2,400	120	—
今回修正予想(B)	15,000	120	200
増減額(B-A)	12,600	—	—
増減率(%)	525.0	—	—
(参考)前期実績 (2022年6月期)	1,939	68	112

2. 修正の理由

第1四半期売上高及び営業利益の実績は、期初想定を下回って着地しました。主な要因としては、AIソリューション事業において新規に採用した人材の立ち上がりに一定の時間を要しており、AIやDXへの旺盛な需要に対して案件化及び収益化のスピードが追いつけなかった点が挙げられます。2023年6月期第2四半期末71名→第3四半期末56名と、一時的に組織縮小した影響が、2024年6月期第1四半期に顕在化したと認識しています。一方で、2024年6月期第1四半期末73名となり、10月以降で既に14名の入社が決定する等、組織拡大フェーズに戻っており、第2四半期以降は順調な組織拡大に伴う売上高及び営業利益の増加を見込んでおります。

また、2023年8月17日に開示したメールカスタマーセンター株式会社(以下「MCC社」)の子会社化に伴い、同社のPL(第2四半期以降の9か月分)の取り込みを反映しており、連結売上高への影響は+12,600百万円となります。MCC社の子会社化の狙いである「AI×事業変革」を本格的に推進すべく、ITシステムや人材に積極的な先行投資を実行する方針であり、第1四半期の実績が想定を下回った影響と合わせ、連結営業利益は据え置きとしております。今後も積極的にM&Aを推進する戦略であることから、EBITDAの算出と開示を開始いたします。

なお、MCC 社の子会社化に伴い計上するのれんの償却費（第 2 四半期以降の 9 か月分）は 80 百万円程度と現時点において合理的に見積もっており、今後のれんの残高及び償却年数の精緻化に伴い変更となる可能性があります。業績予想に大幅な変更が生じた場合は速やかに開示いたします。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。

通期業績予想については、本日公表の「2024 年 6 月期 第 1 四半期決算説明資料」をご参照ください。

以 上